



院長個人・メルマガ受信用 <3443akira@gmail.com>

**【売国奴】岸田文雄氏はキャンプデービットでの「日米韓首脳会議」で、大統領のあらゆる要求をホイホイ受け入れ「売国約束」を確約しまくって帰ってくる疑義が超濃厚です。**

1件のメッセージ

藤井聡・クライテリオン編集長日記 <m00178@foomii.com>

2023年8月18日 8:35

返信先: info@foomii.com

To: 3443akira@gmail.com

2023年08月18日08時32分 配信

**【売国奴】岸田文雄氏はキャンプデービットでの「日米韓首脳会議」で、大統領のあらゆる要求をホイホイ受け入れ「売国約束」を確約しまくって帰ってくる疑義が超濃厚です。**

藤井聡・クライテリオン編集長日記 ~日常風景から語る政治・経済・社会・文化論~

＼この記事をシェアしよう／



キャンプデービットで、日米韓首脳会議が開催されるということで、岸田総理が日本を飛び立ちました。これまで日米韓首脳会議!は幾度となく開催

されてきたが、それらはいつも、G7等の国際会議があった際の「ついで」に行われてきたもので、今回のように「単独」で開催することは初めてのこと。

今回こうした「歴史的に初めてのこと」が行われたのは、虚構等に安全保障状況が大変に厳しいものになってきた、ということを反映してのモノです。

北朝鮮は幾度となくミサイルを発射すると共に、中国の台湾への圧力が年々高まりつつあります。

こうした状況に対応するには、日米、米韓の同盟を強固にするのみならず、日米間の参加国が強固に協調していくことが必要であり、それ故に、今回「歴史上初めて」の単独参加国首脳会議が開催される運びとなった、という次第です。

しかもこの会談お背景には、前大統領の文在寅大統領期には、「レーダー照射問題」に象徴される、日韓における軍事的「敵対」状況があった一方で、尹錫悦大統領になってから、急速にそうした敵対状況が緩和され、日韓での軍事協調が進展しやすい環境になってきた、という経緯もあります。

...というのが、この参加国首脳会談の一般的かつ表層的な解説ですが、実際には、日本の主権やメンツ、国益を度外視し、米国の意向をそのまま鵜呑みする帰結として実現したのが、今回の日米間首脳会談だと考えざるを得ません。

そもそも、レーダー照射問題について韓国はその事実を認めておらず、日本側が持っている事実と乖離した声明を出し続けています。これはつまり、韓国側は、文在寅がつきつづけたウソを、尹錫悦は踏襲し続けているのです。

レーダー照射とは「攻撃」に準ずる行為で、しかも、その「攻撃」は、文在寅大統領手動でさだめた「基本方針」に基づくものですから、日本政府は韓国から「大統領の医師に基づいて攻撃された」のに、韓国は「そんなことはしていない」と言い続けているわけです。

そんな状況を放置したまま同盟関係など結べる筈がないわけで、綿密な軍事的協調関係を構築するなら、韓国側はその事実を認め、謝罪し、二度と再発はあり得ないと確約してもらうことが必要です。

ところが、岸田総理はそうした手続きをすっ飛ばし、「無かったこと」にして日米間の軍事的協調を加速しようとしているわけです。

これでは日本のメンツは丸つぶれ、です。

だから、日米間の連携を綿密にするのなら、韓国からその点についての適切な対応（つまり事実の認定と謝罪、再発防止の確約）を引き出すことが、日本側にとって不可欠なのです。

ところが、岸田内閣はそうしなかったのは何故かという...それは偏に、アメリカに「そんな細かいことごちゃごちゃ言うなよ。北朝鮮や中国がヤバいから、三国でやろうぜ」と言われ、岸田総理がそれに対して「分かりました!!!」と意気地の無いしょぼしょぼな対応をしたからだ、と解釈する他有りません。

したがって、レーダー照射問題を抱えているにも拘わらず、それを不問に付した上で日米間の首脳会談に臨んだ時点で、日本は外交的に敗北しているわけです。

さらに、岸田総理は、バイデン大統領から防衛費増強の要請を受けて、その要請通りに「防衛費を二倍に増やす」ということを決定しています。

これについてはバイデンは「俺の指図に岸田が従った」かのような発言をしています。一応その発言後、バイデン氏は一部の発言を撤回をしてはいるものの、そんな外国の宰相に対する超弩級な失礼発言をしたにも関わらず何の謝罪もしてないというところは要するに、最初の発言が「真実」であることを雄弁に物語っています。

誠にもって情けない話しですが、普通にメンツ有る主権国家なら、アメリカの要請に従うのなら、何らかのバーターが必要です。国産の武器をもっと作ることをアメリカに認めさせるだの、共同開発している武器についての米国だけが握っている機密情報を共有するだの、日米地位協定の不平等項目の解消だの、日本はあらゆる項目で「属国」化されているのですから、それを解消していく交渉が様々にできた筈です。

しかし、そんなことは全くやってません。

それが証拠に、先日、バイデン氏は各国首脳の前で「岸田は、俺の言う通りに軍事費を増やしただよ。みんな、こいつを褒めてやってくれよ！拍手拍手拍手！！」等と紹介しています。もし、岸田氏が日本の主張を様々に通した上で防衛費を倍増したのなら、こんな風に手放しでパブリックな席で褒めちぎるようなこと等バイデンがするはずもありません。

要はバイデンは、岸田の事を今、舐め腐っている状況にあると考えざるを得ないので。

そして岸田は、バイデンにそうやって舐められて、利用されているだけであるにも関わらずそれを「相手されている」と解釈し、「かわいがられている」事を至上の喜びとしているのです。

で、雲上人であるバイデンに相手にされているだけで有頂天になって、バイデンの言うことを何でもかんでもほいほい聞くという次第です。

岸田にしてみれば、「雲上人・バイデンに相手される事」は、「あらゆる日本の国益を売り飛ばし続ける事」とほぼ等価なくらいに素晴らしく大切なことになってるのです。

ホントに情けなすぎて情けなすぎて、腹が立つことすら忘れてしまいそうな話しです。

こんな岸田みたいな男、僕は人生の中でたくさん観てきましたが、そんなクズが自分の上司であったことはありません。そんなクズ態度をやれば当方は速攻そんなクズの下から消え去るので、原理的に当方の上司で、そんな屈辱的な媚態を去らずクズは存在しえなかったのです。

ところが総理の場合は、僕が日本国家から出て行かない限り、その総理がずっと自分のリーダーの地位に鎮座し続けることができるのです。

本当に屈辱です。

そんな腰巾着以下、木原的に言うなら、「ちょっとでも木原に相手して貰ったら、その相手に仕方がどれだけ屈辱的、侮辱的なものでもあっても嬉しくって嬉しくってしょうがないと喜ぶ、九股目の不っ細工なアホな愛人」のような卑屈な人間が、自分たちの国のリーダーだなんて...ほんっと日本人であることを辞めたくくなりますね。

ということで、そんな腰巾着以下で九股目のアホ愛人の様な立場にいるのが岸田なわけですから、今回「アメリカ大統領様の別荘であるキャンプデービッドに国賓として招かれて一緒に寝食を共にする」っていうだけで、天にも昇るような嬉しい気分になっていることは確実です。

で、バイデンにしてみれば、キャンプにつれてきただけで、何でも言うこと聞くアホ女のような扱いで、好き勝手な事を岸田にやりまくるでしょう。

で、そうやって、岸田はそのキャンプ中に、日本の国益をぶっ潰しまくるでしょうもない約束を山ほどやって帰ってくるのです。

ホントに腹が立ちます。

でも、それが、今の日本の真の姿、なのです。

ホント、日本人であることを辞めたくくなりますね。でももちろん、母国は一生かえられないので、この現実を受け入れる以外の選択肢は、我々にはないのです。

誠に残念です。

追伸：筆者（藤井聡）へのご意見、ご感想は、このメールアドレス宛てにお送りください。

---

配信記事は、マイページから閲覧、再送することができます。

マイページ：<https://foomii.com/mypage/>

---

#### 【ディスクレーマー】

ウェブマガジンは法律上の著作物であり、著作権法によって保護されています。

本著作物を無断で使用すること（複写、複製、転載、再販売など）は法律上禁じられています。

- 
- サービスの利用方法や購読料の請求に関するお問い合わせはこちら

<https://letter.foomii.com/forms/contact/>

- よくあるご質問（ヘルプ）

<https://foomii.com/information/help>

- 配信停止はこちらから：<https://foomii.com/mypage/>

---

＼この記事シェアしよう／



## 藤井聡

(京都大学教授・表現者クライテリオン編集長)

京都大学大学院工学研究科都市社会工学教授、京都大学レジリエンス実践ユニット長。1968年奈良県生駒市生。

京都大学卒業後、スウェーデンイエテボリ大学心理学科客員研究員、東京工業大学教授等を経て2009年より現職。2012年から2018年まで安倍内閣内閣官房参与。専門は公共政策論。

著書「令和日本・再生計画」「消費税10%が日本経済を破壊する」「国土学」「凡庸という悪魔」「大衆社会の処方箋」等多数。日本学術振興会賞等受賞多数。朝日放送「正義のミカタ」、関西TV「報道ランナー」KBS京都「藤井聡のあるがままラジオ」等にて解説。表現者クライテリオン編集長。

Facebook

[Prof.Satoshi.FUJII](#)

Twitter

[@SF\\_SatoshiFujii](#)

ウェブサイト

[京都大学 都市社会工学専攻 藤井研究室](#)

本ウェブマガジンに対するご意見、ご感想は、このウェブマガジン宛に返信をお願いいたします。

配信停止・配信先変更は [マイページ](#) からお願いします。

購読・課金・配信に関するお問い合わせは [お問い合わせフォーム](#) までご連絡ください。



The logo for 'foomii' is centered within a solid magenta rectangular background. The text 'foomii' is rendered in a white, lowercase, sans-serif font. A thin white horizontal line is positioned above the 'o' and 'm' characters, extending across the width of the letters.